

優秀賞

いそぎひろもひろぶが

福岡県 北九州市立足立小学校四年 小田 孝太郎

みなさんは、うそをついたらどうなると言われていましたか。ぼくは、おそらくみなさんと同じように、えんま様に舌をぬかれるとか、鼻がのびるとか言われてきました。だから、どんなことがあっても素直が一番と思って、叱られることも覚悟して、悪い事もかくさず、何でも正直に話してきました。

でも、それも平成まで。令和になって、ぼくは、どうとうそをついてしまいました。

ぼくのおばあちゃんは、四十年くらいかぜをひいていません。毎日ランニングもしています。しつけには大変きびしく、

「茶わんを持って。姿勢よく食べなさい。」

などと、いつも注意されていました。お母さんは、今でもおばあちゃんに叱られています。周りの友達のおばあちゃんは、すごく優しいと言っています。ぼくのおばあちゃんは、まだまだ健康だからきびし

いんだと思っていました。でも、ぼくはそんなおばあちゃんが大好きでした。

しかし、おばあちゃんも令和になった四月ごろから、同じことを何度もくり返し言ったり、少し前に言ったことを忘れてたりすることが目立つようになってきました。お母さんは、そんなおばあちゃんに、強い口調で、

「今言ったばかりよ。また同じ事を言って。」

と言うので、あんなに元気だったおばあちゃんも悲しそうに小さい声で、

「そうだったかね。おかしくなっているね。」

と言うようになりました。何だかぼくも悲しい気持ちになりました。

ある日、おばあちゃんから、

「けいごは、何の大会で優勝したんだった。」

と聞かれました。けいごとは、ぼくのいとこのお兄

ちゃんです。ぼくは、

「けいごじゃないよ。孝太郎だよ。」

と言おうと思いましたが、おばあちゃんがうれしそうにたずねている顔を見ると思わず、

「ぼくは水泳の大会で優勝したんだよ。」

とうそをついてしまいました。ぼくはしばらくそのことが気になっていましたが、ふと一年前に読んだ『ばあばはいじょうぶ』という本のことを思い出しました。この本のおばあちゃんは、忘れていく病気がどんどん進行していたけれど、魔法の言葉である

「はいじょうぶだよ。」

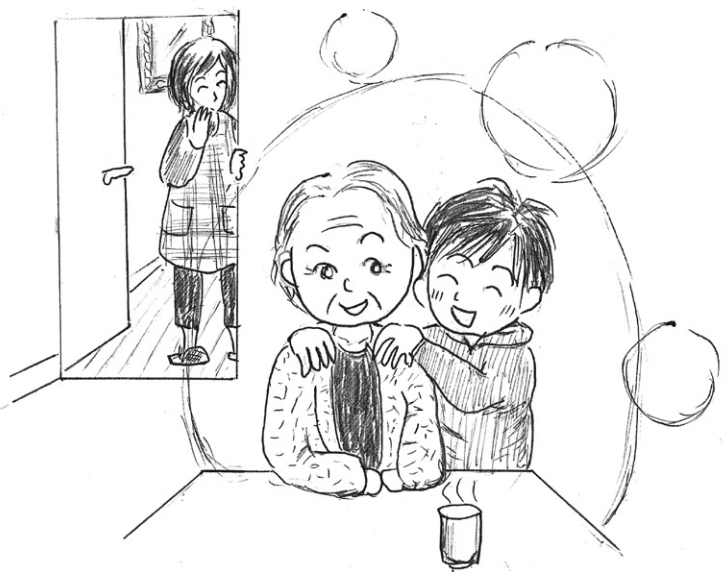
という周囲の温かい声かけで安心できていたこと。だからぼくも今後おばあちゃんには、

「はいじょうぶだよ。今初めて聞かれたよ。」

と答えたり、名前を間違われてもそっとしておいたりしようと決めました。これは優しいうそであって、きっと神様もえんま様もゆるしてくれるうそだと思います。お母さんは、

「正直に話してくれてありがとう。お母さんも優しいうそは、人を強くすると思うよ。」

と言って、ぎゅっとだきしめてくれました。



素直が一番。でも、優しいうそで、救われることもあるのかもしれない。みなさん、優しいうそであれば、うそをついてもはいじょうぶだと思いませんか。